

# 環境まづくり 会報

編集・発行/入間市環境まちづくり会議

## 入間市環境まちづくり会議

### 第5回 総会が開催されました。



助金が8万円減額され、720,000円となり、繰越金をプラスすると768,000円での予算額となりました。事業内容のうち、会員交流や情報交換の手段として、新たにホームページの利用を行うことになり、いまままで年3回発行していた会報が年2回の発行となりました。

会則の一部改正は、第3条、事業のなかの第2項「環境活動や環境基本計画の取組状況の点検」を「環境活動の推進」に、また、第8条の役員の項目で「副会長1人」を「副会長2人」と改められ、岡内定男会長の下、二ノ宮小百合氏と内村忠久氏が副会長に選ばれました。

第5回日の入間市環境まちづくり会議の総会が、5月29日(日)入間市市民会館にて開催され、前年度の事業報告と決算、今年度の事業計画と予算、そして、会則の一部改正などが承認されました。

本年度の事業は、市からの補

給金後、入間市環境まちづくり会議で唯一の部会「みんなのごみ部会」が1年間活動してきた、生ごみリサイクルの見学会

や検討の報告がありました。



会員証 兼 啓発用ステッカー

## 第4回 環境ウォーキング 11月20日(日)開催されます。



- 川沿いや丘陵地帯を歩いて、入間市の自然や街なかを五感を使って環境チェックする、環境ウォーキングが11月20日に開催されます。
- 4回目になる今年は3コースを設定。それぞれコースの環境チェックをしながら、健康と食欲を満たす(ゴールでの芋煮の美味しさは格別)秋の良き一日、愛宕公園を日指します。
- 1、入間川、霞川下流コース
- 5 km(武道館9時出発)
- 2、不老川下流まちなかコース
- 4 km(藤沢公民館9時30分出発)
- 3、加治丘陵コース
- 5・5 km(アミーゴ9時出発)

# 「みんなのごみ部会」からの

## 活動報告



平成16年3月に設立された「みんなのごみ部会」が、活動報告をまとめました。

活動は、月1回の定例会議と生ごみ堆肥化施設などの見学会、講演会、イベントの参加などを実施しています。

定例会では、ごみが定常的に5万トン以上発生し、毎年17億円以上の処理費用がかり増加傾向に、また、最終処分場に限りが、先の見通しが不透明など、入間市のごみの現状認識

を確認しました。

その結果、目に見えるごみの削減を必要とし、そのためには、生ごみの分別回収と堆肥化が有効であること、そして、これらを通して環境にやさしい循環型社会を構築しなくてはならないことを確認しました。生ごみの分別回収と堆肥化ができれば、入間市のごみ全体量5万トンの37%、すなわち約2万トンの生ごみが堆肥化され、リサイクルされるわけです。

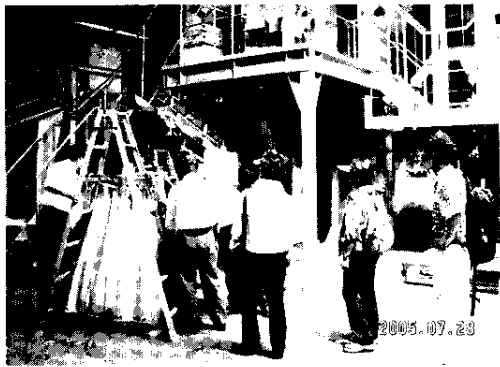
生ごみの分別回収と堆肥化を実現するためには、多くの方々参加が必要です。少しでも興味のある方は、是非「みんなのごみ部会」に参加してください。(叙持)

# 「みんなのごみ部会」 久喜宮代衛生組合の 生ごみ堆肥化処理 施設を見学

久喜宮代衛生組合は、久喜市と宮代町の合わせて108,143人、40,171世帯の一般廃棄物(ごみ、し尿)を共同処理している。

平成19年度に久喜市、宮代町管内全域を対象とした生ごみ処理を目指している衛生組合では、現在、様々なごみ減量と生ごみ堆肥化の事業を実施している。

たとえば、事業所向けには業務用生ごみ処理機補助制度があり、地域の取り組みとしては、生ごみ処理機を管内4カ所に設置している(利用世帯389世帯)。また、モデル地区を選定



して、生ごみ堆肥化処理施設(平成15年3月完成)により堆肥化処理をしているなど、取り

# 学校でも 環境ISO

入間市教育委員会では、各小・中学校において、環境にやさしい学校づくりに向け、平成16年度から入間市学校版環境ISOプログラム「エコスクール人間」に取り組んでいる。

これは、平成15年に入間市役所が、計画・実行・点検・見直しの四つのステップを繰り返して行うISO14001環境マネジメントシステムを取得したことを受け、取り組みになった。エコスクール人間の取り組みは、各学校で目標を立て、全教職員と児童生徒が身近な取り組みが幅広い。

みを行うことで、地球温暖化などに配慮した環境にやさしい学校づくりをしていこうとするもので、副読本の活用による授業で意識を高めるなど環境教育に関わることや、電気の節約、水道の節約の三つをどの学校でも共通理解として、内容は各学校に任されている。環境教育・環境学習については、国の法律として、平成15年に「環境の保全に関する意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が成立し、全国民が環境に配慮した行動をすることを義務づけていて、その行動として、私たち環境まちづくり会議の会員も、一人ひとりが家庭版環境ISOに取り組む方法も考えられる。(平出)

生ごみ堆肥化処理施設では、現在モデル地区8,600世帯の生ごみを堆肥化している。回収方法は、燃えるごみの回収日(週2回)に、分別された生ごみを「生分解性袋」に入れ集積所に出し、回収車が回収し堆肥化処理施設で一日4・8トン堆肥にする仕組みとなっている。堆肥は、通常、畜糞や水分調整材を入れ堆肥化するが、それらが安定的に確保できないことと、生産された堆肥の循環システムが図られていず、量的な問題もあるなどの理由から、この施設で

は生ごみだけで堆肥化している。久喜宮代衛生組合は、新焼却炉建設の検討の中から、大規模の焼却炉ではなく、焼却ごみなるべく減らした循環型社会の構築を目指し、ごみ減量、リサイクルの推進をスローガンに「げんりよう(原料・減量)化大作戦」を掲げ、大きな流れをつくりつつある。ごみの減量は、燃やすごみを少なくする。それには、燃やすごみのなかで大きなウエイトである生ごみを燃やさず、資源として活かす方法を考えることが大切であると思われる。(平田)

まず、身近なところから、

# 温暖化対策

「チーム・マイナス6%」とは、地球温暖化を防止するための政府公認の運動です。以下の6つのアクションがあります。このアクションを実行すると、下記のような効果があります。この運動には、個人でも団体でも参加できます。

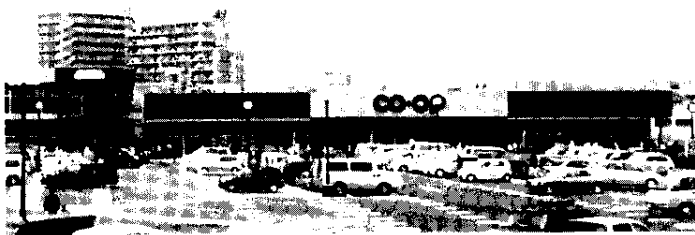
## 入間市環境まちづくり会議は

「チーム・マイナス6%」に参加しています。

- |              |                                                |         |
|--------------|------------------------------------------------|---------|
| <b>ACT 1</b> | 冷房は28℃に設定しよう                                   |         |
|              | 一世帯当りの年間CO <sub>2</sub> の削減                    | 約31kg   |
|              | 一世帯当りの年間排出量に対する削減割合                            | 約0.5%   |
|              | 一年間の節約金額                                       | 約2,000円 |
| <b>ACT 2</b> | 水道の蛇口はこまめにしめよう                                 |         |
|              | 一世帯当りの年間CO <sub>2</sub> の削減                    | 約65kg   |
|              | 一世帯当りの年間排出量に対する削減割合                            | 約1.1%   |
|              | 一年間の節約金額                                       | 約4,000円 |
| <b>ACT 3</b> | アイドリングをなくそう                                    |         |
|              | 一世帯当りの年間CO <sub>2</sub> の削減                    | 約39kg   |
|              | 一世帯当りの年間排出量に対する削減割合                            | 約0.7%   |
|              | 一年間の節約金額                                       | 約2,000円 |
| <b>ACT 4</b> | エコ製品を選んで買おう                                    |         |
|              | 環境に優しい省エネ製品を。特に冷蔵庫やエアコンを買い替えの際には、忘れず省エネタイプを選ぼう |         |
| <b>ACT 5</b> | 過剰包装を断ろう                                       |         |
|              | 一世帯当りの年間CO <sub>2</sub> の削減                    | 約58kg   |
|              | 一世帯当りの年間排出量に対する削減割合                            | 約1%     |
| <b>ACT 6</b> | コンセントをこまめに抜こう                                  |         |
|              | 一世帯当りの年間CO <sub>2</sub> の削減                    | 約87kg   |
|              | 一世帯当りの年間排出量に対する削減割合                            | 約1.5%   |
|              | 一年間の節約金額                                       | 約6,000円 |

### 環境に配慮した取り組み③

## 生活協同組合さいたまコープ



## 生ごみの再資源化も

さいたまコープは、1970年代に店舗でのお買い物袋の持参運動にはじまり、80年代には他に先駆けてミルクパックの回収を始めました。90年代に入ると共同購入の配達車輛への低公害車の導入をはじめ、事業活動に伴う環境負荷の低減をはじめ、環境に配慮

した商品の開発・販売や、リサイクルの推進を進める中で、2000年3月にはISO14001の認証を取得しました。施設面での環境配慮事例としては、県下8カ所のコーププラザ(組合員集会施設)の太陽光や風力発電の施設を設置してきました。6月21日にオープンしたコープ武蔵藤沢では、再生タイヤやシツクハウスに配慮した接着剤の使用等を行なっています。設備面では冷凍機の排熱を利用して湿度を下げ、空調の負荷低減をはかるデシカント空調や、閉店後のオープンケースの冷気漏れを防ぐため、新たに布製シャッターを設置しました。また、店舗から廃棄される生ごみの再資源化にも取り組んでいます。今後も、組合員のみならずと一緒に、リサイクルの推進をはじめ、一層の環境保全活動に努めてまいります。



# 会員の声

## 伝えよう！ 豊かな自然を

わが家の周りでは、6月の中旬からカエルが鳴き始め、7月になるとトンボが飛び、子どもたちが夏休みになる頃にはセミが鳴き始める。こうした光景が毎年繰り返されているが、昔に比べると蝶や虫の数が減っている。そういうえば、カニをとりに行った裏山（加治丘陵）の沢もなくなっているし、霞川の水量も半分ぐらいに減っている。

人が生活し成長するためには、豊かな自然とのかかわりが大切である。身近な自然は、私たち



に様々な恵みを与えてくれる。ストレスが多い現代社会では癒しの効果もある。

次代を担う子どもたちが豊かな自然の中で暮らせるよう、丘陵地の下草刈りに汗を流すのもよし、学校などで樹木管理をするのもよし、川のごみ拾いや家の前の道路をきれいにするのも

よし、鳥のために冬に実がなる木を植えたりするのもよし、思い立った今日から、できることを、みんなで実践していきましょう。

中神 中島竹正

## まちづくりは人づくり

環境まちづくり会議が発足し五年を経過しており、会員それぞれ目的に沿ってグループ化して活動を推進している中で、私は縁あってごみ環境に目を向け、みんなのごみ部会でごみの減量に微力ながら協力させて頂いていることは一つの喜びでもあります。

十六年度にはみんなのごみ部会活動報告・提言をまとめるまでに至ったのは、中心となってご苦労されている方々と共に部会の成果であります。

このことは、人間市を住み良くしようという知らぬ市民同士の触れ合いにより、お互い自己

の形成があるのではないかと今更ながら感じております。すなわち人づくりです。そして、それがさらにまちづくりに還元されて行くのではないのでしょうか。

ただ一言、学習、提言に終わらず、まちづくり会議として市行政に取り組めるような組織力を高めて行くべきではないかと、強く感じる所があります。

東金子 関根精隆

## ■会員の皆さんより声を募集しています。

またこの会に対する、ご意見・ご要望がございましたら、お寄せ下さい。

## 人間市環境展

### 丸広百貨店で開催

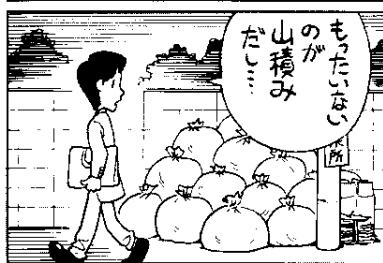
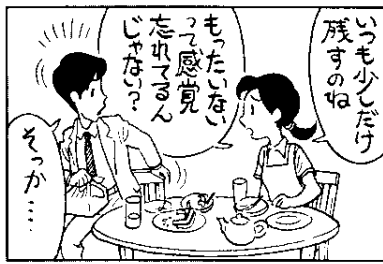
第15回日の今年の環境展も、昨年同様、丸広入間店エントランスホールで、6月3、4、5日の三日間開催されました。

市民の環境団体や学校、行政の環境関係に関連する課などが参加し、活動内容を展示しました。当会議も参加し、当会議の事業である環境ウォーキングや「みんなのごみ部会」などの活動内容の紹介をいたしました。

●会員数 (平成17年9月現在)

430人	内訳
187	市民
166	事業者
50	民間団体
27	行政関係

## 主婦の日記



## 後記

衆議院議員選挙の結果、大型の小泉旋風により自由民主党の圧勝となるなど、日本列島は台風や選挙やあわただしい時期です。アメリカも、これまでにない強烈なハリケーンに見舞われ、多大な被害を被っているなど、このところ世界的にも熱波や集中豪雨など自然現象の新記録ラッシュが続いています。これも地球温暖化が原因なのでしょう。

気象研究所の最近の調査によると、過去10年間で大雨の日と雨が降らない日が増加した一方で、雨の量の少ない日が増加したようであり、雨の降り方が、極化傾向にあることが分かりました。地球温暖化が進むと、さらにこの傾向が顕著になり大雨の日が増え、集中豪雨による洪水や土砂災害の増加が懸念されます。

小生のような気の弱い者には、厳しい自然の環境のなかでは、カタツムリのように殻の中に入らずに生きていなければなりません。日本の四季も変化しつつあるようで、以前より春と秋が短い感じがするのは私だけでしょうか。

(平川)

## 人間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課  
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号  
TEL：04-2964-1111(内線1241, 1243)  
FAX：04-2965-0232  
E-mail：ir210100@city.iruma.lg.jp